

帰国・外国人児童生徒等への日本語指導体制整備事業

日本語指導が必要な児童生徒への 支援体制の整備～授業づくり編～



令和2年度から3年間、日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒等の実態に応じた指導方法や、教育委員会や学校における支援体制・指導体制の在り方について実践研究を行いました。

本リーフレットでは、推進市町の古賀市、飯塚市、苅田町の研究成果として「日本語指導における授業づくり」を中心に紹介します。

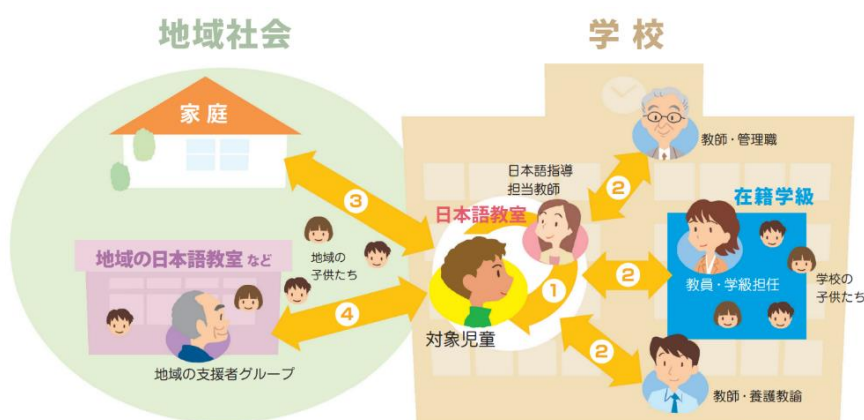
実践事例を参考にして、各市町村教育委員会、各学校等で、日本語指導が必要な児童生徒等の実態に応じた支援の充実を図りましょう。

日本語指導担当教師の役割

日本語指導担当教師に期待される役割には、大きく以下の4つがあります。

- ①児童生徒への教育活動
- ②校内の連携・共通理解
- ③家庭との連携・共通理解
- ④外部機関・地域との連携・共通理解

本リーフレットでは、学校内における役割である①と②について示しています。



①児童生徒への教育活動

○ 指導・支援

生活面の適応、日本語指導、教科指導等の指導や支援を行います。指導計画を作成し、実施します。在籍学級以外で行う「取り出し指導」と在籍学級の授業中に支援する「入り込み指導」があります。「特別の教育課程」を実施する場合は、「個別の指導計画」を作成します。

○ 「居場所」を広げるための支援

日本語指導担当教師には、周囲に児童生徒の状況を伝える「代弁者」としての役割があります。児童生徒が周囲との関係を築き、居場所を広げるための支援を行います。

②校内の連携・共通理解

○ 学級担任との連携

連携によって、学習面で内容を関連付けたり、連続性をもたせたりできます。生活面でも、一貫した教育的対応をすることができます。

○ 他の教職員との情報共有

児童生徒に接する教職員と情報を共有することで、全教職員にとって、より教育的な対応方法を考えるヒントになります。

○ 学校における外国人児童生徒等教育の位置付け

学校全体の教育体制の中に、外国人児童生徒等教育を位置付けることの重要性を、日々の活動を通して伝えることが大切です。

「特別の教育課程」の編成・実施

外国人児童生徒等が在籍する学校においては、「特別の教育課程」を編成・実施することが可能です。外国人児童生徒等が日本語で学校生活を営み学習に取り組めるように、日本語や各教科の指導等について児童生徒一人一人に応じて教育課程を編成します。

- 「特別の教育課程」を編成・実施する場合に必要なこと
 - ・指導の目標及び指導内容を明確にした指導計画を作成し学習評価を行う。
 - ・当該指導計画とその実績を学校の設置者である教育委員会等に提出する。



(参考) 「特別の教育課程」による日本語指導を行う場合の年間スケジュール (例)

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)

日本語指導のプログラム

取り出し指導における日本語指導のプログラムの概要は、以下のとおりです。

①「サバイバル日本語」プログラム

- ・挨拶の言葉の場面や具体的な場面で使う日本語表現についての学習

②「日本語基礎」プログラム

- ・文字や文型など、日本語の基礎的な知識や技能についての学習
(A)発音の指導、(B)文字・表記の指導、(C)語彙の指導、(D)文型の指導

③「技能別日本語」プログラム

- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の言葉の4つの技能のうち、どれか一つに焦点を絞った学習

④「日本語と教科の統合学習」プログラム

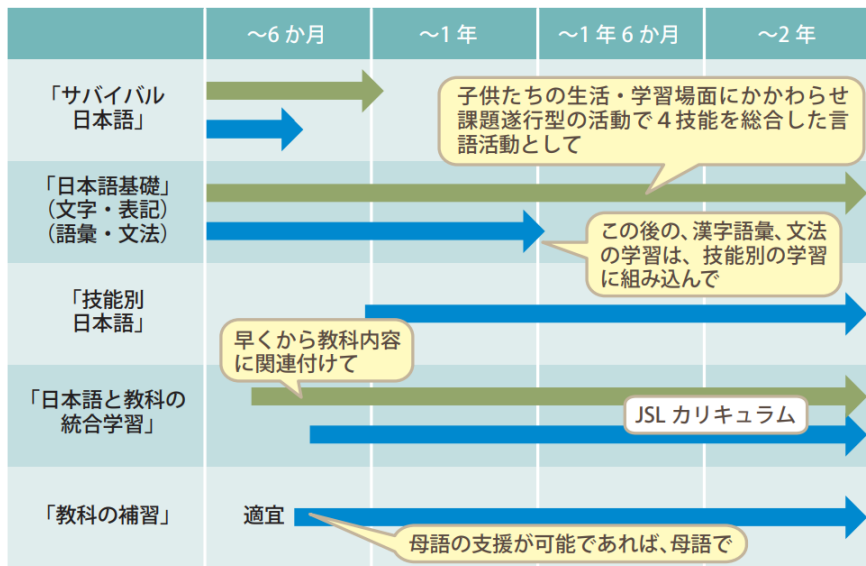
- ・児童生徒にとって必要な教科等の内容と日本語の表現とを組み合わせた学習
(そのためのカリキュラムとして、文部科学省が「JSLカリキュラム」を開発)

⑤「教科の補習」プログラム

- ・在籍学級での教科内容を復習的に学習したり、入り込み指導として担当教員などの補助を受けたりしながら行う学習

右は、学校において、来日後、毎週2時間程度の日本語指導を、2年間継続できる場合のプログラムの組み合わせ例です。

児童生徒の滞在期間や日本語習得状況、生活への適応状況などを考慮する必要があります。



緑: 小低・中学年 青: 小高学年以上

プログラムの組み合わせ例

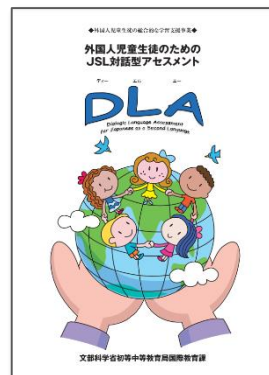


古賀市教育委員会の取組

児童生徒への教育活動

古賀市では、日本語指導が必要な全児童生徒に「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」を実施し、教科学習に必要な言語能力を、対話によって「話す」「読む」「書く」「聞く」の4つの面から把握しています。そのことにより、「特別の教育課程」を編成し、児童生徒の日本語の力に合わせた日本語指導を実施しています。

また、5つのプログラム（サバイバル日本語、日本語基礎、技能別日本語、日本語と教科の統合学習、教科の補習）を組み合わせ合わせた指導を、意図的・段階的に行っています。

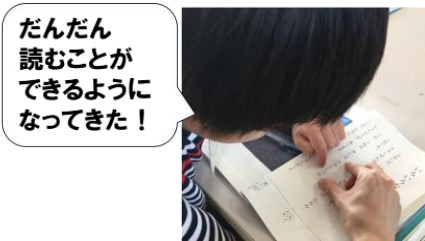


【サバイバル日本語】



簡単な絵図を用いて学校のルールを理解

【技能別日本語】



DLAで明らかになった課題を克服するために重点的に学習（読む）

【教科の補習】



漢字・計算、学習のめあて、教室で出されたプリントなどについて補習

〈学びを振り返ることができる掲示物〉



安心して学べる環境

きめ細かな支援

語彙力を深めたり広げたりするための「言葉の木」

三角、丸などの形と言葉の意味を一致させる。

横、斜めなどの向きと言葉の意味を一致させる。

〈個別支援〉

同じ1単位時間に、それぞれの児童の実態に応じた教材を活用する。



B児：主に動作と漢字を組み合わせる

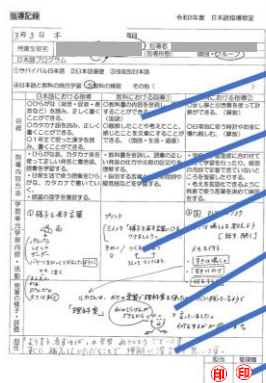
A児：主に形と漢字を関連付ける

校内の連携・共通理解

「記録簿」によって、学びの連続性をもたせるとともに、校内の指導の連携を図っています。

「記録簿」を活用し、日本語指導の学習内容や児童生徒の様子、評価の状況を共有しています。

「記録簿」を回覧することで、組織的な日本語の指導につなげることができています。



日本語・教科の指導目標

指導内容・方法

学習単元・内容・活動

児童の様子 評価

在籍学級担任より

担当・管理職確認

教師の指導の「記録簿」



「記録簿」の回覧とファイリングによる保管



飯塚市教育委員会の取組

児童生徒への教育活動

飯塚市では、取り出し指導により、日本語指導が必要な児童生徒に週1～2回、それぞれの日本語能力に応じた指導や教科の補充学習を行っています。①日本語の目標の設定、②日本語プログラム、教材・教具の決定、③日常生活につながる評価の3ステップによる授業づくりを大切にしています。また、児童生徒の日本語能力や学校からの要望に応じて、入り込み指導も実施しています。

【取り出し授業における授業づくりの3ステップ】

ステップ1

日本語の目標の設定

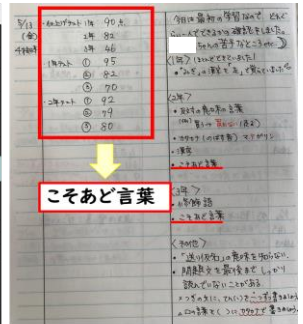
「何ができるようになればいいのか」

- 個別の指導計画
- 市販のテスト等
- 担任、教科担当との連携

本市で統一している日本語指導の個別の指導計画や市販テスト等、また、担任や教科担当などから聞き取った実態を基に、児童生徒に応じた目標を設定するとともに、指導の計画を立てます。

個別の指導計画及び評価

作成者	児童生徒の日本語の力を話す力・読む力・書く力・聴く力の4技能の観点から「できること」を記入する。 ※記入の際には「学習目標例」やチェックリストを参考にする。
学校名	
日本語の能力	【話す力】周りの人が言う簡単なあいさつや短い単語、定型表現をまねて繰り返すことができる。 【読む力】日本語で書かれた自分の名前や書道よく使う単語を識別することができる。 【書く力】大きなマス目の中に文字を書くことができる。 【聴く力】簡単なあいさつや日常よく使われる定型表現を聴いて、繰り返すことができる。
指導目標	【初期の前期段階】「学習目標例」に記載の「初期の前期段階 大目標例」「初期の後期段階 大目標例」を参考に記入する。 【日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、意思疎通を単語レベルでできる。】 【日本の学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。】
期間	【前期】4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 【後期】4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
日本語指導計画	① サバイバル日本語 ② 日本語基礎 ③ 技能別日本語 ④ 日本語と教科の統合学習 ⑤ 教科の補習
備考	【日本語学習5つのプログラム】 ① サバイバル日本語 ② 日本語基礎 ③ 技能別日本語 ④ 日本語と教科の統合学習 ⑤ 教科の補習 児童生徒の日本語能力に応じた指導内容を5つのプログラムから組み合わせて実施する。 ※プルダウンから選択する。(⑤教科の補習のみは好ましくない)



個々の日本語の課題を把握し、学習内容を焦点化

ステップ2

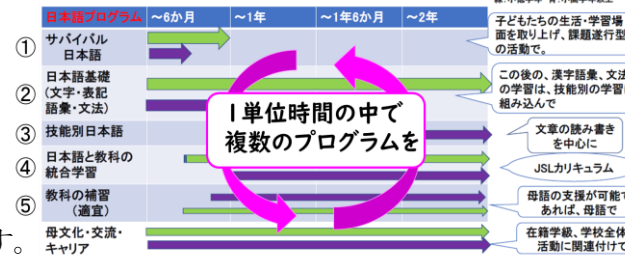
日本語プログラム教材・教具の決定

「どのように、何をを使って指導するのか」

- 日本語プログラム
- ワークシート等
- 書籍、カード等
- タブレットの活用

児童生徒の実態に応じて、どのような日本語プログラムで、どのような教材を用いて指導するかなどについて検討します。1単位時間の授業を複数のプログラムで組み立て、継続的に、スモールステップで学ぶことができるように工夫します。

日本語指導教室用に設定したアカウントにより、タブレット端末を常時活用しています。アプリや検索ソフトを活用し『分からない』をその場で解決します。



日本語プログラムを複合的に、継続的に、スモールステップで

ステップ3

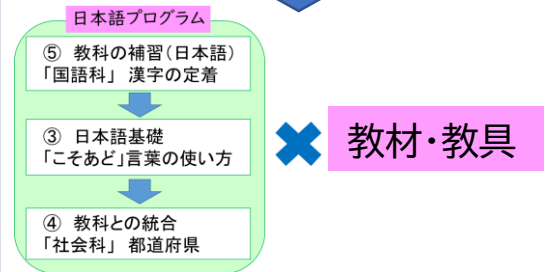
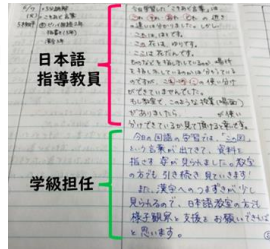
日常生活につながる評価

「どのように見取り、フォローするのか」

- 観察、テスト等(即時的な評価)
- 担任、教科担当による補充的指導

評価が日常生活につながるように、児童生徒の学びを日本語指導教室の中で留めないことを大切にします。

担任との「連絡ノート」を活用し、補充しながら支援します。



(例) 小学校5年生A児の1単位時間

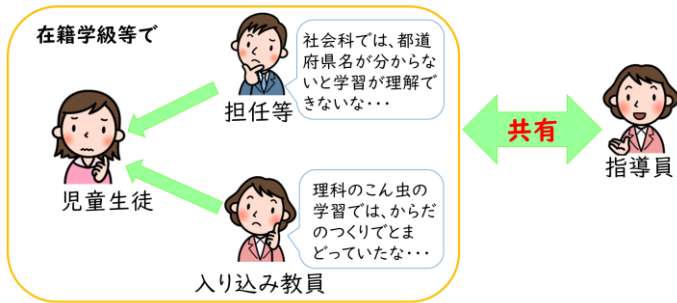
校内の連携・共通理解

前述の「連絡ノート」に、毎時間の学習内容やできたこと、気になったことなどを書くことで、学級担任と直接話す時間があまりない中でも、共通理解を図ることができるようにしています。

日本語と教科の統合学習や教科の補習においては、学級担任や入り込み教員と日本語指導教員との情報共有を大切に、指導に生かしています。

また、何気ない会話の中で分かった児童生徒の悩みや困り事を学級担任につなぎ、連携した支援を行うことができるようにしています。

担任や入り込み教員等との連携



苅田町教育委員会の取組

児童生徒への教育活動

苅田町では、対象児童生徒の転入が決まった段階から、学校と教育委員会で指導体制を構築し、日本語指導の進め方を検討しています。
 小学校〇年生のA児について、転入後、どのように日本語指導を進めていったのか、学校と教育委員会との関わりと併せて時系列で示します。

【個に応じた授業づくり～小学校〇年生のA児を例に～】

〇学校、町教育委員会日本語指導担当指導主事が、A児の母親と面談し、A児の日本語能力等についての情報収集
 →日本語指導が必要な児童であると判断し、日本語指導支援員の配置決定

2月末～

〇日本語指導支援員が中心となって、担任と情報共有しながら、JSLバンドスケールを用いてA児の日本語能力の実態把握
 →指導方法の決定

4技能	見立て(レベル)
聞く	1・2・3・4・5・6・7
話す	1・2・3・4・5・6・7
読む	1・2・3・4・5・6・7
書く	1・2・3・4・5・6・7

弱い ← 10分 JSLバンドスケール 小学校 高学年 → 十分

(参考) 川上郁雄 (2020年) 『JSLバンドスケール小学校編』『JSLバンドスケール中学・高校編』明石書店

指導方法の決定

「日本語基礎」プログラム
 文字や文型など日本語の基礎的な知識や技能を学ぶ
 取り出し

「日本語と教科の統合学習」プログラム
 教科の内容と日本語の表現とを組み合わせる授業で学ぶ
 入り込み

春休み

〇日本語指導支援員による日本語指導
 →ゆっくり、じっくり学ぶことができる環境
 ・平仮名の長音、促音、拗音
 ・数え方

4月～

〇週3日で日本語指導をスタート
 ↓
 〇在籍学級でのA児の様子から、週4日、支援員を配置し、3時間の取り出し指導と4時間の入りこみ指導へ
 →取り出し指導
 ・テキストを用いた日本語基礎
 ・教科学習のための日本語の予習 (事前に国語の教科書にルビを振って読む練習など)

(参考) 「みえこさんのほんご」 三重県教育委員会

校内の連携・共通理解

担任と打合せ時間が取れないときも、「日々の日本語指導の記録」を通して、日本語指導の様子を情報共有しています。例えば、「国語がほとんど分からない状態」という記述を受け、学校と教育委員会が一緒に協議して、日本語指導の時数を増やしたり、支援員がいないときには、国語の時間にはなるべく担任外の教員を配置したりすることにしました。日々の記録は、月ごとにまとめ、本町独自の「様式3 指導に関する年間記録」として残し、小学校から中学校卒業までスムーズな引継ぎができるよう、学校と教育委員会が情報共有しています。

日々の日本語指導の記録

実施日	内容
4月7日(水)	【学習内容】国語学習のゲームをした。1、2年の漢字を思い出しながら漢字を覚えた。横の友達にも分からない時は質問できた。 【状況】 休み時間は、男の子ばかり。質問に似た質問も来てきた。
4月12日(金)	【学習内容】国語の基礎知識 ①「国語」は、国や地方、方言、漢字(ローマ字)すべてでできた。また国語が国語で学ばないといけないところがある。 ②漢字の読み書き 【状況】 授業で分からないところをたくさん質問するも、授業の進みに支障をきたさず解決した。毎日1時間(15分)の学習時間がある。
4月13日(土)	〇年の学習が始まり、国語がほとんど分からない状態。板書は習っていない文字も一生懸命まねて書いているが、意味が取りづらい様子。できるだけ国語の補助の先生を付けてもらえるようお願いしたい。
4月19日(木)	担任以外に補助の先生を付けてくれるようお願いした。 【学習内容】国語 ①「国語」の学習の重要性を話し、お手本を見ながら漢字の

月ごとの日本語指導の記録

月	指導内容	指導時間	指導状況
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			

様式3 指導に関する年間記録

JSLカリキュラム

JSLカリキュラムとは、日本語指導と教科指導を統合し、学習活動に参加するための力の育成を目指して、文部科学省が開発したものです。「トピック型」JSLカリキュラムと、「教科志向型」JSLカリキュラムがあります。

(「JSL」は、Japanese as a second language (第二言語としての日本語) の略)

①「トピック型」JSLカリキュラム

- 目的
 - ・各教科に共通した学ぶ力の育成を目指す。
- ねらい
 - ・「体験」「探究」「発信」という3つの局面を組織し、その中で観察、情報の収集、思考、推測等の教科学習の基礎となる活動を組み立て、その成果を日本語で表現できるようにする。
- 学習活動の流れ
 - ・体験の具体化→探究の体系化→成果の発信
- トピックとは
 - ・特定のテーマを中心にしてそこから生ずる課題のこと

②「教科志向型」JSLカリキュラム

- 目的
 - ・各教科固有の学ぶ力の育成を目指す。
- ねらい
 - ・各教科において特徴的な授業と局面を組織し、その中で教科を学習していく上で必要な活動(例えば、観察、情報の収集、思考、推測など)を組み立て、その成果を日本語で表現できるようにする。
- 留意点
 - ・通常の授業よりもきめ細かな学習活動を組織するとともに、そこに適切な支援を行う。

【授業づくりを支援するツール「AUカード」】

AUカードは、トピック型の学習活動の中に、日本語表現を組み込んでいく作業を支援するツールです。「AU」は、Activity Unit (活動の単位) の略であり、AUカードは、それぞれの活動を行うために必要な日本語のバリエーションを組み合わせ、一枚のカードにしたものです。児童生徒の日本語の力を考慮しながら、学習活動で用いる日本語表現をAUカードにあるバリエーションから選択します。AUカードは、教科志向型の学習活動においても使うことができます。

(例) AU: 比べながら観察する2「違いを観察する - 1」
よく使う言葉 → 違う どこ

	働きかけ・発問の表現	応答の表現
基本形	・～と～、違うところはどこですか。	・～は～(だ)けれど、～は～(だ)というところが違います。
バリエーション	・～と～は違っていますか。 ・どこが違いますか。	・～が違っています。 ・～が違います。

(参考) 文部科学省HP「『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について』(最終報告)小学校編」では、「AU一覧」として、100以上のAUカードが掲載されています。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008/004.htm)

本リーフレットは、「外国人児童生徒受入れの手引 改訂版」(2019年3月文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課)を基に作成しています。

以下に、日本語指導の参考となる資料や情報検索サイトを示します。

- 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」
(文部科学省初等中等教育局国際教育課)
- 文部科学省 情報検索サイト・関連HP
 - ・「かすたねっと」
 - ・「CLARINETへようこそ」
 - ・外国人児童生徒等の教育に関する教職員・支援者向け研修動画
 - ・外国人児童・保護者向け動画「はじめまして! 今日からともだち」「おしえて! 日本の小学校」

